



「静観自得」に決定!

毎年、センター試験出願の時期に、3年生の受験に向けてのスローガンを発表しています。今年の3年生(51期)のスローガンは、「静観自得」(じょうかんじとく)に決まりました。

元々は仏教用語です。簡単に言うと「心静かに見て、自ら納得する」ということです。学問もまさにその通りで、集中して問題を考え自ら納得する理解ができたとき、本当の学力になります。安易に答えを見るのではなく、集中して深く考え「真に分かった」といえるように努力しましょう。51期生は毎日放課後補習の後、クラスみんなで放課後自習をしています。互いに集中して自習に取り組む中で、一つでも多くの納得をしてもらいたいという意味が込められています。

このスローガンの発表により、3年生は更なる飛躍を目指して受験勉強に邁進しています。

センター試験出願 受験近づく

センター試験出願を、本校では一括して9月30日に行いました。先日、出願の登録内容の確認はがきがセンターから届き、3年生は個人宛のはがきを受け取って、内容の最終確認作業をしているところです。3年生は10月、11月は休日返上で模擬試験を受験し、勉強に専念して頑張っています。大学入試までの日々を有意義に過ごし、本番で力を発揮してほしいと願っています。

3年生特定大プレテスト始まる

10月25日から土日を利用して、特定大学のプレテストが始まりました。国公立大学の個別(二次)試験の形式で受ける模試です。九州大学や熊本大学、鹿児島大学など色々な大学のプレテストがあります。今年度は231名がのべ300件のプレテストを受けます。本番の個別試験のつもりでしっかり準備をし、実りあるテストになることを期待しています。

文理選択～1年生～

2年次からのコース分けは、卒業後の進路を決定する上でとても重要な選択です。文系コース、理系コースについての説明と、選択に当たって大切な点を紹介します。

<文系コース>

資料や情報を収集し、自分の言葉で表現する力が要求される。国内外の文献を読みこなす国語力・語学力だけでなく、専門分野の知識を深め、社会の動きに敏感になることが要求される。また、統計等を用いる経済学・心理学等は勿論のこと、他の学問も論理的に考えていくため、数学的な思考も重要になってくる。主に法学、経済学、文学、哲学、心理学、歴史学、語学、芸術、体育、教員養成(文系)等の系統の学部・学科に進学したい生徒を対象としたコース。

<理系コース>

問題に対して、仮説を立て検証する力が要求される。自然科学の事象を理解するための理科的な知識、実験データを正確に把握・分析するための数学力が求められる。また、論文やレポートを書くための表現力、文献を読みこなすための国語力・語学力も求められる。主に理学、工学、農学、水産、獣医、医学、歯学、薬学、医療系、食物栄養、教員養成(理系)等の学部・学科に進学したい生徒を対象としたコース。

*但し家政学、福祉関係は両方のコースが考えられる。
*看護系大学への進学を希望する人は、理系を選択することが望ましい。看護系入試の場合、理科の履修は理系のほうが有利と思われる。

「文理選択」に当たって大切なこと

- ①「職業観の育成、上級学校についての情報収集」
「何に興味や関心があるのか、何をやりたいのか」という点から将来の職業と大学の学部・学科について、客観的に考察していくこと。
- ②「自己理解」
周囲の意見に十分に耳を傾けながら「自分を知ろう」という積極的な姿勢を維持すること。

【1学年部より】

鹿児島中央高校に入学して、早くも半年が経ちました。そして、いよいよ文系・理系を決めなければならない大事な時期に差し掛かってきました。

文系であれ、理系であれ、これから相当な努力を重ねていかなければならないのは皆さんも分かっているはず。その一歩を踏み出すために、今回は登山家の栗城史多氏の言葉を紹介します。

『私は山登りを通して、苦しみには3つの特徴があることに気づきました。1つは、「苦しみと闘おうとすればするほど、その苦しみは大きくなっていく」。もう1つは、「苦しみから逃げて、どこまでも追ってくる」ということです。

人間の身体器官の中で、酸素の使用量が一番多いのが脳だといわれています。そのため、苦しい時に焦ったり、熱(いき)り立ったりすると、脳がどんどん酸素を消費してしまいます。

7500メートル以上の世界では、少ない酸素をいかに無駄なく取り入れるかが大切なので、体力的に、精神的に本当に苦しい時に、あえてそこで「ありがとう」と言いながら登るんです。

そうやって苦しみを受け入れると、不思議と心が落ち着いてきて、無駄な酸素を使わずに山を登ることができるんです。

そして特徴の3つ目は、「苦しみは必ず喜びに変わる」ということ。例えば、高尾山のような低い山は簡単に登ってしまうので、登頂してもあまり感動は沸いてきません。しかし、8000メートル峰に登頂した時は、それまでの苦しみが大い分、得られる達成感も半端じゃない。苦しみの分だけ、喜びがある。だから、苦しみは決して悪いものじゃないと考えています。

信条としてきたことはいろいろとありますが、まず「一歩を踏み出す」こと。そして「諦めない」ということが、私の生きる姿勢かもしれません。山登りでは1歩を踏み出さないと頂上にはいけません。

登山に限らず、地上のいろいろなチャレンジにおいても、「できる」「できない」と考える前に、まずはやってみることが大切だと思うんです。

私がエベレストに登頂できずに下山して帰ってくると、周りからは「失敗した」って言われるんです。でもそれはちょっと違います。成功の反対は失敗ではなく、本当の失敗とは「何もしないこと」です。

私は山登りを通して、挑戦し続けていく先に必ずや登頂や成功があるのだと確信しています。だからこそ、諦めないことの大切さを伝えていきたいと思っています。』

“終わりなき頂上への挑戦”より

『プロフェッショナルへの道』致知出版社



先輩！どんな事を考えて文系・理系を選択したんですか？教えてください！



どちらかと言うと、文系の方が成績もよかったけど、医療関係へ進みたかったので理系を選択したよ。



自分の受けようと思っている学部の出願科目をまず調べて、それを見て決めたよ。



歴史の勉強が好きだったからだよ。でもその後に理系の学部に行きたくなっちゃってちょっと後悔しました。

【2学年】

友だちの『後期の決意表明文』を読んでみよう

タイトル【 3年0期をむかえて 】

表明文 前期を終え、自分の勉強が足りないことを多々思い知らされます。^①2年の後期は高校生活の「折り返し」であるとともに、「3年0期」として例えられるような区切りのよい学期です。今までの反省を生かして私は2つの目標をたてます。1つめは^②「三点固定」、特に宅習を始める時間を固定し、平日4時間、休日7時間を目標にしたいです。2つめは、^③受験生として早くスタートをきることです。苦手を克服して3年になって苦労を少しでも減らせるようにしたいです。この2つの目標を守り、今期を有意義に毎日楽しく充実して過ごせるように頑張ります。

(原文抜粋)

以上、後期に向けての決意を表明します。

平成27年10月6日

自著(サイン) ■ ■ ■ ■



※ 波線部①について

今なら間に合う！ ここからが本当のスタートだ！

※ 波線部②について

**自宅学習を始める時間
就寝する時間
起床する時間**

この3点を「固定」する！

生活リズムを一定にする

※ 波線部③について

「目標をもつ」

志望大学・学部・学科を明確に掲げよう！

「学問に王道なし」

日常からコツコツとした努力を積み重ねていこう！



【国内体験学習に向けて… その①】

12月はインフルエンザが流行する時期です。早めの対策(予防接種)をおすすめ！

【3学年部から】

1 **51期生の現状と課題**

(1) 南薩路遠行を終えて。

去る10月16日、この上ない秋晴れの空の下、南薩路遠行が実施された。約30kmの道のりを、君たちは大いに楽しんでいただろう。南薩の美しい風景、友人とおしゃべりしたり、助け合ったりしたこと、足の痛みをこらえてゴールしたときの気分……。かけがえのない青春の思い出であろう。この道のりは、立ち止まれば当然進めない。1m進むのにも自分の足を前に踏み出さなければならない。しかし歩き続ければ必ずゴールにたどりつく。これは、君たちが現在直面している受験勉強のあり方に、非常に似かよっているのではないだろうか。学校行事としての遠行は終わったが、受験勉強というもう一つの「ゴールを目指す旅」は継続中である。



(2) 各種模擬試験総統中、各人の奮闘を期待する。生活面の再チェックも。

10月は小論文模試、進研模試、全統記述模試が立て続けに行われ、休む間もないという状況であったろう。現在の自分の学力を適正に判断し、進路に活かすものであるから、誠実に、意欲的に受験してほしい。「ただ受験しているだけ…」という者がいたら、その時点で負けている。そのためには体力も当然必要。先日のPTAでは、食事・睡眠を中心にした健康管理の大切さを話題にした。多くの者が親の愛情のこもった弁当を毎日作ってもらっている。当たり前と思わず、感謝の念をもっていただきたい。そして、自らの一日の生活の流れを再チェックしてほしい。—無理なスケジュールを組んでいないか、宅習の時間帯が不規則になっていないか、そして、授業や補習には集中できているか—遠行のように、一步一步確実に前進しよう。今後も各種模試は引き続き行われていく。

また、服装をはじめとした生活態度はいかがだろうか。検査の時だけ乗り越えて、あとはいい加減になってはいないだろうか。紺章を付けない、男子のスポンの裾上げ、頭髪の乱れ、長い爪。先生方や外部の方にきちんと挨拶はできているか。受験生だから適当で良い、ということは決してない。下級生の模範となる3年生でありたい。

最後に、もう一つ。「スマホなどにうつつを抜かしている者は決して合格しない。」毎回言うが、全国50万のライバルを常に念頭に置いてほしい。

2 **11月の進路関係、その他の行事**

- (1) 進研マーク模試(7・8日)
- (2) 好学①(14日)
- (3) 進路講演会(18日)
- (4) 河合塾センタープレテスト(21・22日)
- (5) ストレスマネジメント講演会(25日)



上記の通り、引き続き各種の模試が実施される。

14日の土曜日はこれまでの「土曜授業」から「好学」という位置づけになる。

18日(水)は北九州予備校から外部講師を招いて進路講演会を実施する。

25日(水)にはストレスマネジメント講演会。これも外部講師を招き、受験勉強のストレスをいかにコントロールするかについての講演が行われる予定である。

なお、4日、11日のLHRを中心に、受験用の顔写真撮影が行われる。頭髪・服装を整えておこう。

また、12月8日～25日は、センター試験前の三者面談が行われる。ある意味、君たちの一生を左右する非常に重要なものである。詳しくは別紙案内および担任からの連絡を参照していただきたい。